

まちの話題

PHOTO



ヌルツとした田の感触に驚きながら、ぎこちない手つきで手植えに挑戦する子供たち

泥んこが田植えの勲章

総社北分館 田んぼの学校

6月4日(土)、米づくりを通じて農作業の大変さや農村の風習を学ぶ田んぼの学校が総社北分館で開校しました。この日、親子連れ約220人は、苗代や代かきなどの話を聞いた後、分館近くの田で田植えを体験。田植え網に沿ってもち米の苗を一株ずつ丁寧に植えていました。「秋の収穫が楽しみ」と五味真知さん(総社北小6年)は、稲の生長を願っていました。田んぼの学校では、来年1月までに、自然観察や稲刈り、もちつき、お飾りづくり、とんどなどが予定されています。



日本に生息するトンボは約200種。そのうち、この周辺には64種ものトンボが生息している

このトンボ、何て名前かな

自然観察会「トンボを探そう！」

6月12日(日)、鬼城山ビジターセンター周辺でトンボの観察会が行われました。網と虫かごを持参した参加者20人は、センター内で、トンボの種類や捕り方などの講習を受けた後、周辺の池や湿地へ移動。参加者は、同所に生息する希少なトンボを図鑑と見比べたり、講師に尋ねたりして熱心に観察し、もとの自然へ帰っていました。難波侑也くん(5つ)は、「トンボを捕ってじっくり見たのは初めて。楽しいのでまた来たい」と間近に見るトンボに少々興奮気味でした。



披露された歌碑を祝い拍手を贈る関係者

駅前に趣きのある歌碑が誕生

総社駅前歌碑除幕式典

6月4日(土)、総社駅前で歌碑の除幕式がありました。高さ1メートル、幅2メートルの自然石でできた歌碑は、駅東口の観光案内所北側に設置。この歌碑文を揮ごうした名誉市民の高木聖鶴氏は「戦後、総社市民から忘れられつつある黒姫伝説を復活させたいという思いを込めました」とあいさつをされました。歌碑には、黒姫が吉備の国で仁徳天皇と別れるときに詠んだ短歌「倭方に 西風ふきあげて 雲離れ 遠きおりとも 我忘れめや」と記されています。



総社北公園でやり投げの練習に励む木下愛さん。この種目は、数メートルの助走で勢いをつけ、長さ・2.2メートル、重さ・600グラムのやりを投げてその飛距離を競う。肩の強さ、身体の柔軟性、握力などが重要となる種目。

輝いている人

このやりをもっと遠くへ…
今はそれしか頭にありません。

岡山県高校総体女子やり投げで2年連続優勝した

木下愛さん(総社高校3年生)

岡山県高校総体女子やり投げで、43.25メートルの同大会での自己ベストを記録し、昨年に引き続き2連覇を飾ったのが、木下愛さんだ。

「正直プレッシャーがあった分、優勝できてすごくうれしかったです。この好調をキープして、岡山国体最終予選を突破して、国体の舞台に立つのが今の目標です」と明るくはきはきと答える。

小・中学校時代は、短距離ランナーとして、全国大会で活躍した。しかし、今の陸上部顧問の教師に、非凡な肩の強さと身体のしなやかさを買われ、高校生になってからやり投げへ転向。3年にも満たない競技歴で、2度の県チャンピオンに輝いた。「小学生の頃、ドッジボールが大好きでした。男子の中に私一人混じってやることもしばしば。今思えば、それで肩が鍛えら

れたのかもかもしれませんね」と愛きょうたつぷりに笑う。「やり投げは、陸上競技会場の真ん中で行われます。その分注目度も高いはず。フィールド上を突っ切って飛んでいくやりを見ると爽快です。いつも遠くへ投げることを考えるあまり、授業中、無意識にやりを投げる素振りをして、先生に拳手と勘違いされちゃって」と舌を出す。

おしゃべりが大好きで、家族や級友とも話題が尽きることはないという。「最近、学校を嫌う人が多いけど、私にぎやかな学校が大好きです。将来は、中学校の体育教師になりたいです。スポーツを通じて、不登校児童などに学校の楽しさを教えられたらすきですすよね。」とくつたくなの笑顔を見せる。青空をまっすぐ飛ばやりは、彼女の夢に必ず届くはずだ。

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじや編集室(企画課)までご一報ください。自薦・他薦は問いません。